「くしゃみ、鼻水、鼻づまりで悩んでいるあなたに」

『アレルギー性鼻炎』の最新治療法について

「堀病院」耳鼻咽喉科の平木信明先生（東手城医院院長）に聞きました

くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどで多くの人が悩まされるアレルギー性鼻炎。この最新治療について「堀病院」耳鼻咽喉科の平木信明先生（東手城医院院長）に聞きました。

Q アレルギー性鼻炎はどんな病気？

アレルギー性鼻炎は、生活の質（ＱＯＬ）を著しく低下させます。鼻づまりによる口呼吸のため、ハウスダストやスギ花粉などの抗原が鼻腔（くう）内に入ると、くしゃみ、のどの渇きや痛み、鼻水、鼻づまりなどを示す病気です。現在、成人のほぼ半分が罹（り）患しており、増加傾向にあります。生命を脅かすことはありませんが、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状が長く続くため、かゆみ、頭痛を訴えることもあります。また、不眠、イライラ感、全身倦怠（けんたい）感や集中力の低下など、学業や仕事への影響が出ることもあります。

Q どんな治療法があるのですか

アレルギー性鼻炎の治療には薬物療法、免疫療法、手術療法などがあります。まず行うのは薬物療法です。内服薬としては、抗ヒスタミン薬など、外用薬には点鼻薬があり症状や程度に応じて使い分けられています。次に唯一の根本治療である免疫療法は、体の免疫力を高めていく治療法です。一昨年からスギ、昨年からダニの抗原による舌下免疫療法が始まりました。

手術療法は通年性アレルギー性鼻炎や薬の効果が少ない方にお勧めです。鼻づまりの改善を目的とした鼻中隔矯正術・下甲介（かこうかい）切除術、鼻水やくしゃみの改善を目的とした後鼻神経切断術、アレルギー反応の起こる鼻粘膜に照射するレーザー治療があります。レーザー治療は約6カ月～2年で再発することが多いといわれています。

Q 舌下免疫治療法とは？

液状（スギ）や錠剤（ダニ）の薬を舌下（舌の裏）に置き、1、2分してから飲み込みます。初めは少量から始め、徐々に増量して体の免疫力を高めていく治療法です。効果はある程度期待でき、注射による治療に比べ比較的安全ですが、まれに副作用が出ます。また、2年～5年間治療を続ける必要があります。12歳以上から行えます。

Q これらの治療には保険が利きますか

紹介した治療はすべて保険適応です。高齢者は医療費の1、2割、それ以外の方は3割負担です。また高額療養費制度という医療費を減免してくれる制度もありますので、具体的な金額は治療を受ける医療機関でお尋ねください。

Q 後鼻神経切断術の方法は？

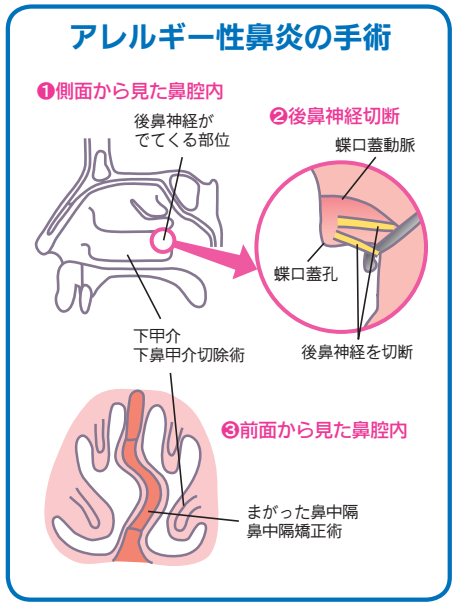
後鼻神経は、鼻の奥で蝶口蓋孔（ちょうこうがいこう）という穴から蝶口蓋動脈と共に鼻の中に入ってくる神経で、鼻水やくしゃみに関係しています。

以前の手術は特殊なメスを使い、蝶口蓋動脈と後鼻神経を共に切断する方法でしたが、動脈を切断すると将来、鼻を加湿する働きを損なうだけでなく、術後出血の可能性も高まるため、動脈と神経を分離し、神経のみ切断する方法が主流になっています。

後鼻神経を切断することにより鼻水やくしゃみなどの症状が7割ぐらい改善します。後鼻神経切断術は優れた効果を長期間得ることができ、症状が再発しても短期間の点鼻薬や内服薬で症状の改善が多くみられます。

アレルギー性鼻炎の主症状はくしゃみ、鼻水、鼻づまりですので、後鼻神経切断術とともに、さらに効果を増すため鼻中隔矯正術、下甲介切除術を同時に行います。

また最近、術後に舌下免疫療法を併用することもあります。手術は、全身麻酔で行うので痛みはなく、内視鏡で鼻からのみ行うので顔に傷は付きません。手術は約2時間で、入院は7日～10日間ぐらいです。手術は12歳以上から行えます。



平木信明先生

1999年、産業医科大学医学部卒業。同大学医学部助教。和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科。浜松労災病院耳鼻咽喉科。熊本労災病院耳鼻咽喉科を経て2011年より堀病院および、東手城医院勤務

耳鼻咽喉科・眼科
堀病院
☎084(926)3387
福山市沖野上町3-4-13
耳鼻科HP=http://www.hori.or.jp
眼科HP=http://ganka-hori.com
堀病院 検索